

(科目コード : 8102420005MM)

【改訂】第31版(2013-03-25)

【科目】流体力学

【科目分類】専門科目 【選択・必修の別】必修

【学期・単位数】通年・2単位

【対象学科・専攻】機械 5年

【担当教員】前期:矢口 久雄

後期:矢口 久雄

【授業目標】

- ・抗力と揚力について理解し、抗力係数や揚力係数を用いた計算ができる。
- ・流れを記述するための概念や数学的方法を理解し、それを用いた計算ができる。
- ・理想流体の特徴を理解し、オイラーの方程式について説明できる。
- ・粘性流体の特徴を理解し、ナビエ・ストークス方程式について説明できる。
- ・ナビエ・ストークス方程式の簡単な場合の解析ができる。
- ・ナビエ・ストークス方程式の無次元化を理解し、レイノルズの相似則について説明できる。
- ・境界層の概念を理解し、境界層方程式について説明できる。
- ・循環や渦度の概念を理解し、それらを計算で求めることができる。
- ・ポテンシャル流れについて理解し、それを用いた簡単な解析ができる。
- ・乱流について基本的な説明ができる。

【教育方針・授業概要】

本科目の総授業時間数は45 時間である。流体力学IIでは、流体力学Iで学習した内容を発展させ、流れのより一般的な概念や解析方法について学習を進める。受講するにあたって、流体力学Iで学んだ内容を良く理解していることはもちろんであるが、内容が流体力学Iよりもさらに数学的になるため、微積分、ベクトル、複素数などを正しく理解し、その基礎的な取り扱いをしっかりと身につけていることが必要である。また、公式の暗記に頼るのではなく、物理的な原理や法則を「理解する」ことが強く求められる。

【教科書・教材・参考書等】

教科書: JSME テキストシリーズ「流体力学」: 日本機械学会: 丸善: 978-4888981194

【授業形式・視聴覚・機器等の活用】

座学

【成績評価方法】

[前期] 中間試験: 30%, 期末試験: 50%, レポート: 20%

[後期] 中間試験: 30%, 期末試験: 50%, レポート: 20%

【達成目標】

	達成目標	割合	評価方法
1	・抗力と揚力について理解し、抗力係数や揚力係数を用いた計算ができる。 ・流れを記述するための概念や数学的方法を理解し、それを用いた計算ができる。	20 %	定期テスト
2	・理想流体の特徴を理解し、オイラーの方程式について説明できる。 ・粘性流体の特徴を理解し、ナビエ・ストークス方程式について説明できる。	20 %	定期テスト
3	・ナビエ・ストークス方程式の簡単な場合の解析ができる。 ・ナビエ・ストークス方程式の無次元化を理解し、レイノルズの相似則について説明できる。	20 %	定期テスト
4	・境界層の概念を理解し、境界層方程式について説明できる。 ・循環や渦度の概念を理解し、それらを計算で求めることができる。	20 %	定期テスト
5	・ポテンシャル流れについて理解し、それを用いた簡単な解析ができる。 ・乱流について基本的な説明ができる。	20 %	定期テスト

【本校の学習・教育目標】

(B-1) 工学の基礎となる自然科学の科目を理解する

(C) 技術的問題解決のための専門分野の基本的知識を身に付ける

各学科における専門科目を学習することにより、技術的課題を理解し対応できる

【授業計画】（流体工学）

回数	授業の主題	内容	レポート	宿題
第1～2回	物体まわりの流れ	抗力と揚力, はく離, 後流, カルマン渦		
第3～7回	流れの記述	ラグランジュ表示とオイラー表示, 連続の式, 圧縮性の判定, 流線		
第8回	前期中間試験			
第9～11回	流体の運動方程式	オイラーの方程式, ナビエ・ストークス方程式		
第12～15回	粘性流体の運動(1)	ナビエ・ストークス方程式の厳密解		
	前期期末試験			
第16～17回	粘性流体の運動(2)	ナビエ・ストークス方程式の無次元化, レイノルズの相似則		
第18～20回	境界層	境界層の概念, 境界層方程式, 境界層のはく離		
第21～22回	乱流	層流と乱流, 乱流の発生, 乱流の取り扱い		
第23回	後期中間試験			
第24～27回	ポテンシャル流れ(1)	渦度, 速度ポテンシャル, 流れ関数		
第28～30回	ポテンシャル流れ(2)	複素速度ポテンシャル		
	後期期末試験			